

## 留学レポート

鈴木 晴矢

この度、埼玉親善大使としてクイーンズランド州スカラシッププログラムに参加させていただいた鈴木晴矢です。このレポートでは現地で得た様々な経験や感想を紹介します。

### 1. クイーンズランド州・ヤプーンについて

私たち6人はクイーンズランド州北東部にある海沿いの町、ヤプーンに約2週間滞在しました。ヤプーンは、成田→ケアンズ→ブリスベン→ロックハンプトンと飛行機を乗り継ぎ、そこから車で約40分のところにあります。成田からの飛行機は午後8時出発でしたが、最終的にヤプーンについたのは次の日の午後2時でした。ちなみに日本とオーストラリアの時差は約1時間で、日本の方が1時間遅いです。留学期間中は冬でしたが気温が高くとても過ごしやすかったです。ヤプーンは海が綺麗な小さい町です。メインビーチのすぐそばにはたくさんのホテルが立ち並んでいますが、それ以外に高い建物はほとんどありません。ヤプーンは車社会です。公共交通機関はバスのみなので、多くの学生はバスで通学していました。



ヤプーンラグーン



丘からの眺め

## 2. 学校生活

留学期間中は主にヤプーン高校の通常授業に参加しました。日本でいうホームルームが始まるのが8時50分で、学校が終わるのは15時10分です。ヤプーン高校は1コマ70分の4時間授業で、休み時間は40分休みが2回ありました。オーストラリアの高校は中高一貫のような形で、学校には year7~year12（日本でいう中学1年生から高校3年生）までいました。日本の授業では、基本的に生徒はずっと同じ教室に居て、先生が変わるがわる教室に来るシステムですが、オーストラリアは逆で先生はずっと同じ教室に居ます。そのため毎回は移動教室で大変でした。

学校生活ですが、一人一人日替わりで主に year9~year12 の子がバディについ

てくれて、そのバディと一日過ごしました。休み時間はバディの子が図書館に連れて行ってくれました。高校の図書館には日本の漫画がたくさん置かれていて、現地の高校生には日本の漫画が好きな人がたくさんいました。他にも休み時間はタックショップ(学食)でおやつを買ってたくさんの友達とおしゃべりをしました。また、学校には牧場があり、牧場見学では鶏や牛を触らせてもらいました。ヤブーン高校では日本語の授業がありました。生徒の日本語のレベルが思った以上に高く、日本語で会話も出来たのでとても感心しました。その日本語の授業では生徒が日本語の文を書くのを手助けしたり、日本語の会話を楽しみました。その場を借りて奨学生6人からパワーポイントで埼玉県の紹介プレゼンをしました。

私は埼玉県のスポートチームと大宮公園について紹介しました。みんなすごく興味を持ってくれて、埼玉に行きたいと言ってくれました。

ヤブーン高校には見た目に関する校則がありません。そのためピアスを開けている人や髪を染めている人がたくさんいました。また、生徒と先生の距離感が近く、生徒は恥ずかしがらずどんどん発言・質問をし、先生はそれに必ず答えるという授業なので授業中静かな時間はありません。授業は常にディスカッションのような雰囲気なので寝ている人はいなく、ほとんどの人が真面目に授業を受けているのが印象的でした。

授業の他に生徒たちとオーストラリアのダンスを踊ったり、生徒が演じているミュージカルを見たりしました。



学校の牧場

### 3. ヤプーンでの生活

前述した通り、ヤプーンは海が綺麗です。週末にはビーチで私たち6人や他の国からの留学生で私にとって人生初めてのサーフィンをしました。インストラクターの方が丁寧に指導してくださり、初心者でも少し波に乗ることが出来ました。また私のホームステイ先から歩いてすぐのところにあるコースウェイ・レイクでセーリング体験をしました。セーリングとは、ヨットのような船に乗って速さや技術を競う競技です。今回は競技ではなく、担当の方が運転する船に乗った形でしたが驚くことに担当の方のうちの一人が私より4歳下のヤプーン高校

の year 8 の生徒でした。その年の生徒でもこのように働いていることにとても驚きました。次の週末にはホームステイファミリーにバイフィールドナショナルパークに連れて行ってもらいました。野生のカンガルーや見たことのない鳥に出会い、オーストラリアならではの雄大な自然を感じることができました。そこからホストシスターの恋人が運転する 4WD 車に乗り、ストックヤードポイントという海の見晴らしが良い丘に行きました。ジャングルの中を進む険しい道のりでしたが、その分到着した時の景色はとても綺麗でした。



セーリング



レインボーロリキート



バイフィールドナショナルパーク



ストックヤードポイント

## 学んだこと

私にとってこれが初めての海外だったということで、日本と海外（オーストラリア）の文化や人柄などの違いを学びました。オーストラリアでは見知らぬ人とも頻繁に会話をします。例えば私のホストファミリーはスーパーやレストランの会計の時に必ず店員と少し雑談をしていました。日本ではそのような文化がないので新鮮な光景でした。また、私のホームステイの家では必ずみんな揃った状態で夕食を食べます。夕食の準備も母、父、子関係なくみんなで行いました。夕食では食事と会話を楽しんだのですが、食べ終わると「Did you enjoy?」と毎回聞かれました。オーストラリアの家庭では食事をただ食べるだけの習慣ではなく、「楽しむ」と認識していました。私はこの何気ない会話がとても印象強く頭の中に残っています。私には家で食事を楽しむという考えがありませんでした。私が日本ではたまに夕食を一人で食べることがあると伝えると、とても驚いていました。このようにオーストラリアでは人との繋がりを大事にし、何事も楽しむ文化があります。これは生活する上でとても大事なことだと感じました。この文化の違いを学び、私はどんなことも楽しもうとすることができました。

## 4. まとめ

ホームステイ先では上手く馴染めるか少し不安でしたが、快く歓迎してくれて

その不安はすぐ無くなりました。3時半頃に家に帰ると必ず一家全員揃っていました。週末の夜は一家全員でシアタールームにて映画を見ました。それがルーティーンだそうです。とても温かい家庭でした。ホームステイファミリーをはじめとして、今回の留学では現地の人の温かさを感じました。学校で歩いているとたくさんの人が「こんにちは!」「楽しんでる?」と声をかけてくれました。会話をするときも、こちらが聞き取りやすいように話してくれたので英会話も楽しめました。今回の留学は本当に多くの出会いがありました。出会いが多い分別れもたくさんあり、とても辛かったですが、繋がりがなくなったわけではありません。日本に帰ってきてからも彼らとは頻繁に連絡をとっています。異国の地にかげがえのない友ができました。私は将来海外で活躍できる人材になりたいと思っています。そうした時にこの繋がりは将来自分にとってとても大切です。この留学で得たたくさんの繋がりをずっと大切にしていきたいと思っています。

最後に、この様な素晴らしい経験をする機会をくださった埼玉県国際課やクイーンズランド州政府の皆様をはじめとする関係者の方、現地で出会った高校生や先生方、ホームステイファミリー、そして親善大使として共に海を渡った5人の仲間たちにこの場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございました。



ロックハンプトンの街並み



ブリスベンの街並み



ホストファミリーと